

卵アレルギーとインフルエンザワクチン

卵や卵成分で、
全身症状やアナフィラキシーを起こしたことがなければ、
通常、特に問題なく接種が可能です。



1. 当院ではこのように接種しています。

●卵や卵成分・製品（つなぎや卵ボーロなど加工品を含む）を食べている方、インフルエンザワクチン接種歴のある方

接種できます。

●卵や卵成分・製品（つなぎや卵ボーロなど加工品を含む）を食べたことのない方・除去している方
インフルエンザワクチン接種歴のない方

多くの場合は、問題なく接種できますので、接種後の注意点（安静・観察時間、内服薬など）についてご相談しましょう。

接種によるメリットとデメリット（**3**をご参照ください）を十分にご理解のうえ、行いましょう。

重症化を予防するメリットは大きく、多くの学会からも接種が推奨されています。

当院では、目安として「卵ボーロやつなぎで食べられている方」には接種して問題ないと考えます。

その場合も、卵への反応に限らず、ワクチンの一般的な副反応についての注意が必要です。

●アナフィラキシーを起こしたことがあり、現在も卵や卵成分・製品（つなぎや卵ボーロなど加工品含む）を一切食べていない方（完全除去）

個人差があり接種できることもあると言われています。

救急体制の整った医療施設でご相談ください。

2. インフルエンザワクチンに含まれる卵の量について

ワクチンを製造する過程で、発育鶏卵の尿膜腔というわれる場所でインフルエンザウィルスを増殖させるため、ワクチンには“ごく微量”の鶏卵成分が残存します。

“ごく微量”とはどの程度でしょうか。卵アレルギーの方へのワクチン接種について、Jamesら（1998）の研究で「卵に含まれるオボアルブミンという蛋白が1200ng/mL以下で安全に接種できる」と報告しましたが、インフルエンザワクチンに含まれるのは10ng/mL以下でした。それ以降も改良を重ね、現在のものはさらに精製されています。



3. ワクチンのメリットとデメリット

【メリット】

「発病」と「重症化」の予防ができます。

発病予防については、小児で60%と報告されています（厚生労働省、2020/8）。

重症化については、肺炎、気管支炎、中耳炎、脳症、心筋炎、などの合併症から重症化する場合があります。特に、脳症は毎年100~200人台の発症が確認され、うち9割が15歳未満です。この重症化を予防するのが最大のメリットと考えます。

【デメリット】

鶏卵に限らず、強いアレルギー症状を有する人の場合、ワクチンに含まれる他の成分によるアレルギー反応を起こすことがあります。

副反応として、局所の反応（発赤、腫脹など）のほか、発熱、倦怠感、消化器症状（嘔吐、下痢など）、関節痛、筋肉痛など、多くのワクチンに共通してみられるような副反応がありますが、通常2~3日で消失します。

稀に、ショック、アナフィラキシー様症状（じんま疹、呼吸困難、血管浮腫）が出現することがあります。そのほとんどが、接種後30分以内に生じます。

ごく稀に、けいれん、振戦、脊髄炎などの神経疾患、ネフローゼ症候群、肝機能障害、喘息発作などの報告があります。

参考文献

- ・『小児内科』・『小児外科』編集委員会共編：予防接種Q&A 改訂第三版、2013
- ・James JM, Zeiger RS, Lester MR, et al: Safe administration of influenza vaccine to patients with egg allergy. J Pediatr 133: 624-628, 1998
- ・岡部信彦、多屋馨子：予防接種に関するQ&A集 第20版、2020